OKINAWA PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING GRADUATE SCHOOL

公立大学法人

沖縄県立看護大学大学院

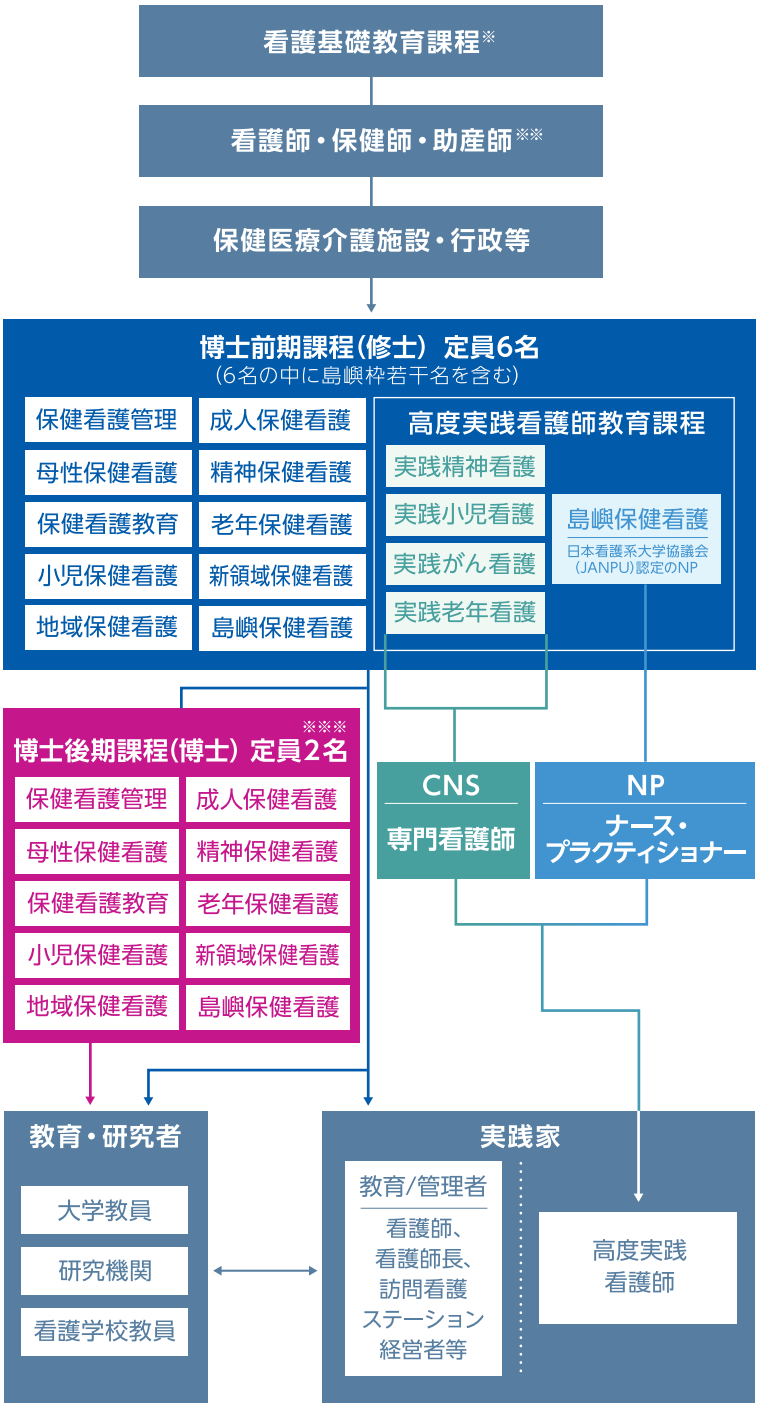
保健看護学研究科 保健看護学専攻

博士前期課程

博士後期課程

大学院教育

目指すのは、
保健看護活動を通して
新しい学問の創出に
貢献できる人財の養成



※看護系短期大学・専門学校を卒業した方を対象に、個別の出願資格審査を実施しています。審査により出願資格を認められた方は、出願することが可能です。
※※看護系大学を卒業見込みの方（看護師等の免許取得見込みの方）も受験できます。
※※※博士後期課程は看護師等の免許がない方も受験できます。

教育課程の特徴

博士前期課程

後期課程へ繋げるための基盤となる教育・研究能力、高度な実践者・教育者としての専門的能力、専門看護師等の資格条件を取得し、高度な実践家としての能力を身につけるよう教育課程が編成されています。

博士後期課程

看護分野における研究者として自立した研究活動を行うのに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う能力を身につけるよう教育課程が編成されています。

博士前期課程

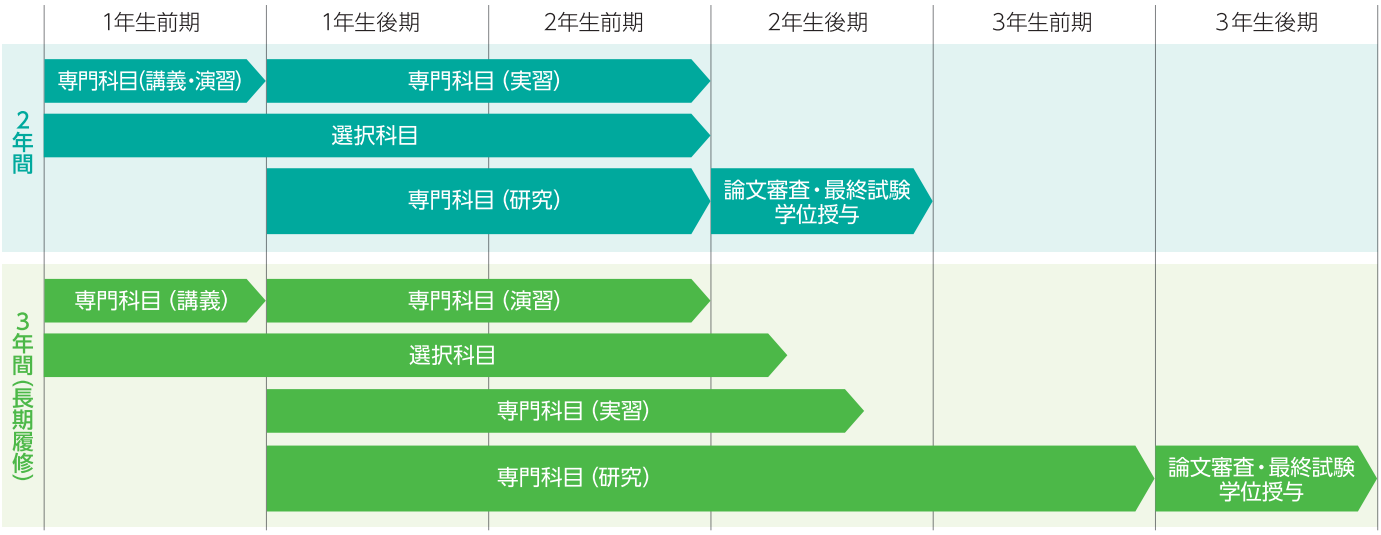
取得可能学位：修士（看護学）

博士前期課程では、広い視野に立って看護における高度なケアの実践や教育のできる専門的能力、また、学識を深めることによって研究能力の獲得をめざします。

- 修士論文を選択した方は、後期課程へ繋げるための基盤となる教育・研究能力の獲得
- 課題研究を選択した方は、高度な実践者・教育者としての教育的指導能力、看護実践を改善・改革していく能力の獲得
- 実践課題研究を選択した方は、修了後に高度実践看護師としての6つの能力（実践・調整・倫理調整・相談・教育・研究）が発揮できる高度な実践家としての能力の獲得

大学院の概要をチェック

学位取得（修士）までのスケジュール（例）



＊長期履修制度により3年間の就業が認められています。

主な修士論文のタイトル

■困難感を覚えた中堅看護師のコンセプチュアルスキルの様相（保健看護管理）
■支援者と共にリフレクションすることで生じる新人看護師のリフレクションスキルの変化（保健看護教育）
■看護師による統合失調症初発患者を抱える家族への支援（精神保健看護）
■沖縄県A島一般住民の飲酒実態と問題飲酒者の特徴（地域保健看護）
■助産師が職業上経験する心的外傷的出来事と心的外傷後成長との関連（母性保健看護）
■成人科に転科した小児期発症腎・リウマチ性心疾患患者の小児医療から成人医療への移行の様相ー移行理論を用いたmultiple -case study-（小児保健看護）
■大腸がん患者の罹患症状の認識と生活習慣との関連（成人保健看護）
■集中治療を受ける高齢者のストレングスの発揮を促す看護-心臓手術を目的に入院した1事例-（老年保健看護）
■指導者の分娩ケアにおける「実践の中の省察」ー学習者に応じた指導場面からー（新領域保健看護）
■A 島の人と人とのつながり方が家族の在宅看取りの意思決定に与える影響～地域文化に配慮した看取りへの支援のために～（島嶼保健看護）
■A 病院精神科病棟看護師のクライシスプラン作成に関する自己効力感に影響する要因（実践精神看護）
■医療的ケアが必要な子どもと養育者の在宅移行を促す病棟看護師の関わり（実践小児看護）
■統合失調症を有する終末期がん患者に対する緩和ケアの質向上に向けた実践（実践がん看護）
■小離島にU ターンした慢性疾患を抱える高齢者の対象理解（実践島嶼保健看護）

修士論文一覧をチェック

海外在住の非常勤講師と研究方法に関する遠隔授業の様子

在学生の声

＜精神保健看護＞　望月 花

①大学院を目指したきっかけや理由

看護師として勤務していると、それまでの学習・経験した範囲では理解しきれないことが出てきても、忙しいからとそのままにしていました。自分がなりたい将来像を考えたとき、疑問を持つことを大切にしたい、研究を通して実践を振り返り、対象者への理解を少しでも深めたいと考え、大学院を目指すことにしました。

②大学院で目指していること

大学院の講義やゼミを通して、当たり前とされていることを鵜呑みにするのではなく、様々な角度から科学的・批判的に考える力を身につけることを目指しています。

③大学院に進学してよかったこと

興味関心の領域が異なっていても、学びたいという同じ思いをもつ他の院生と仲良くなれたことです。

④大学院に進学して大変なことと、それを乗り越えるための工夫

大学院と仕事と私生活を両立させるためのスケジュール管理が難しいです。勉強できる時間が出来てもつい怠けてしまうため、「この日は課題、この日は休日」と予定を決め、切り替えるようにしています。

⑤大学院入試を検討している方へのメッセージ

「大学院」と聞くと敷居が高く感じますが、新卒から管理職まで様々な学生がいて刺激を受けられる場です。迷っている方は、ぜひ試しに説明会に参加したり大学に相談したりしてみて下さい！

＜高度実践看護師教育課程　実践がん看護＞　羽鳥 恵

①大学院を目指したきっかけや理由

急性期病院で約15年看護師として働く中で、臨床で出会った患者さんとご家族との関わりで様々なことを学んできた一方、もっとよりよい看護ができたのではないかとモヤモヤする場面も多く経験しました。これからのキャリアを考えた時に、タイミングよく、大学院の二次募集があることを知り、直感的にがん看護CNSコースで勉強したいと思い、職場の理解と協力のもと、受験に至りました。

②大学院で目指していること

実践がん看護を専攻しており、がん看護専門看護師の資格取得に向けて、専門看護師の役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究に必要な能力を身につけるために、ディスカッションを中心とした講義、演習、実習を行っています。

③大学院に進学してよかったこと

これまで臨床で自分なりに考えて経験を積みながら看護実践してきたと思っていましたが、その実践を言語化することが苦手でした。大学院では指導教員や講師の先生方や院生とのディスカッション、課題レポートで考察するという場が多くあり、視野が広がり少しずつ成長していると感じています。理論やエビデンスなど学んだことをすぐ臨床現場でアウトプットしようと意図的に関わっています。

④大学院に進学して大変なことと、それを乗り越えるための工夫

家庭もあり勤務しながら通学しているので、長期履修学生制度を利用しています。家庭、仕事、学業の両立は時間的にも精神的にも大変ですが、時間休などで仕事を調整したり、家族に家事育児を協力してもらったりと職場と家族の手厚い協力のお陰で、時間を確保し頑張っています。指導教員の先生と履修スケジュールを相談し、院生仲間と共に切磋琢磨しながら乗り越えています。

⑤大学院入試を検討している方へのメッセージ

何歳になっても学ぶチャンスがあります。タイミングです！同じような2年・3年過ごすか、学びながらその時間を過ごすか。ぜひ一緒に学びましょう。

修了生の声

＜高度実践看護師教育課程　実践島嶼保健看護＞　ナース・プラクティショナー　折戸 雅恵

①大学院を目指したきっかけや理由

沖縄県外での看護学生時代から、沖縄県の離島で働くことを望んでいました。念願叶い、沖縄の離島（石垣島と久米島）で働いて10年が過ぎようとしていました。離島で看護実践を重ねていく中では、プライマリケアの中で幅広い看護実践が求められ、経験したことがない看護や、経験が浅い看護もあり、自己課題を多々感じていました。課題解決のために「何ができるか」を学ぶために、大学院入学を目指しました。上司が背中を押してくれたこと、実践から離れず、離島で働きながら学べる環境があったことが、大学院へ進むきっかけとなりました。

②大学院で取り組んだこと

日々のレポート、実習調整、課題研究を行う中で、現在起きている現象や自分の考えや想いを、相手へ伝えることの難しさが壁となりました。伝わらない部分をディスカッションして埋めて、文章化し、自らも客観的に現象をみることを繰り返す、苦しい日々でした。この経験が、その後の患者さんとのコミュニケーションや同僚と看護を語る上で大きな力になったと感じています。

③大学院で学んだことや得たこと

「ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ」の授業は、今でも立ち返る点として私の中に残っています。「健康上の問題を人々の生活のなかで具体的にとらえること」、毎日の生活の場の中でという視点を得ました。「平易な言葉を用いて生活を構造化する」ことを学びました。ヘルスプロモーションの基本は、「人への働きかけ」。健康教育は、人間関係のネットワークの中で行われます。1人1人、1つ1つをどうつなげていくか、コミュニケーション能力を磨く必要性を感じました。人々の生活の場の中で健康教育を行うには、他者理解を深める必要があります。「優先されるべきは、人々がもつ関心課題であり願望」。「社会モデル」を活用した事例展開をすることで、島人から求められる看護の提供に結び付けていきたいと感じました。この授業を受けて、教科書を読んであたかも「分かった気になっていた」、または「分かった気になる」様々な事柄を、再度体験し、考えることの大切さ、大変さ、様々な考え方を学びました。自分で考え、周囲とコミュニケーションをはかって、自分の手で一つずつ実行していく。その先に、島人の健康へとつながるものが見えてくるのではないかと思えました。

④大学院に進学してよかったこと

大学院に進学して、改めて看護を学んで、看護職の倫理綱領にある「看護職は、人々の健康と生活を支援する専門職である」ということを、ようやく自分の中に落とし込むことができました。自分が実践する看護の意義を整理することができました。大学院生として共に学ぶ仲間は、さまざまな分野で働く看護師であり、一緒に学び、ディスカッションすることで、自分の経験だけでは補いきれない知識や経験値を知ることができました。大学院卒業後も、臨床での相談相手として、頼もしい仲間が得られました。

⑤大学院に進学して大変だったことと、それを乗り越えるために工夫したこと

学びの両立は、現在の課題をすぐに学びに結びつけられる反面、学びに割ける時間が限られます。その現実を受け入れ、「〇〇時間以内でできるところまでまとめる」など、自分で決めた時間内でできるだけのことをする対応をしました。仕事の現場でも、限られた時間で仕事をまとめなければならず、時間管理として現在に活かされています。

⑥大学院での学びで現在の活動につながっていること

自己課題の一つとして、専門の治療現場で実践経験したことがない精神看護を、どのように離島での実践につなげるかということがありました。大学院時代に課題研究としてまとめ、方向性を整理できました。その後、離島精神科治療の場から、本島精神科医療機関との連携体制構築や、離島での精神科訪問看護の立ち上げなど、大学院で学んだことをもとに、離島臨床現場の医師・看護師とチームを組んで一つずつ、島民の困りごとに対し、生活の中で支援する実践につなげています。また、院内の活動だけでなく、行政の委員会活動にも参加し、島内の保健医療の課題を、島内支援者と共に課題解決に向けて議論する実践につなげています。

⑦大学院入試を検討している方へのメッセージ

大学院で学ぶことで、これまでの自己の看護実践の意味や意義を整理し、捉えなおすことができました。それが、その後の看護実践に向けて、大きな力となりました。大学院で学ぶことは、長く離島で看護師として働く上で、私には必要な時間だったと思えます。

＜保健看護教育＞　管理補佐　前泊 貴大

①大学院を目指したきっかけや理由

中堅看護師として院内外の教育活動に参加する機会が多くなり、実際の教育場面で意図した教育ができず困難を感じることがありました。この困難を解決したい、もっと根拠に基づいた看護教育を実践したいという思いをもって大学院を目指しました。

②大学院で取り組んだこと

大学院では保健看護教育領域に関するコア科目だけでなく、看護研究に関する選択科目を中心に受講しました。受講においてプレゼンテーションやディベートが必須で、主体的に取り組みました。また、大学院では最終的に論文を執筆する必要性があり多くの時間と努力を注ぎました。その過程の中では多くの研究論文を読み込むとともに、研究論文によっては研究手法などが難しく感じることがあったので、量的研究や質的研究にかかわらず広く研究方法論についての学習を進めました。そして、最新の研究動向をつかむために海外論文を読む必要もあり、時間があるときにはリーディングを中心に英語の学習にも取り組みました。

③大学院で学んだことや得たこと

私が大学院入学前に感じていた困難等について保健看護教育領域の学習を進める中で論理的に理解し解釈することができました。また、臨床では学ぶことが難しい看護基礎教育に関する学びを得ることができたのはとても大きく、看護基礎教育と臨床とのつながりを深く考えるきっかけになりました。そして、修士論文の執筆過程においては研究の仕方や論文の書き方の基礎を学ぶことができ、研究倫理審査などを通して研究対象者の権利を守るといった研究倫理感や責任感を学び得ることができました。

④大学院に進学してよかったこと

上記のように大学院に進学して多くの学びを得ましたが、学びには際限がありません。そういった意味では自分がいかに無知であるかを知ることができたことは良かったと思います。看護職には生涯学習が求められていますが、大学院修了後にも探求心をもって多くの学習に取り組めるマインドになりました。また、多くの先生方や大学院生とのつながりを持つことができたことも良かったと思います。大学院修了後も看護学研究ゼミにお声かけを頂けるなど多くの刺激を受けています。

⑤大学院に進学して大変だったことと、それを乗り越えるために工夫したこと

私は看護師として働きながら大学院へ通う、いわゆる社会人大学院生でした。夜勤もしながらのフルタイム勤務と大学院の課題や授業、研究活動、そして子育てとの両立は想像した何十倍も大変でした。その大変さを乗り越えるために、体調を崩さないようにセルフマネジメントを重要視しながら徹底的にタイムスケジュールを調整する努力をしました。そして何より、最後まで休職せずに、私がこの困難な両立を成し遂げることができたのは、職場のスタッフや研究指導教員の先生方、家族が私のスケジュールを理解し、様々な調整を頂けたことが大きいと考えており感謝しています。

⑥大学院での学びで現在の活動につながっていること

大学院で培った論理的思考能力は、臨床で看護師として勤務する中で様々な問題や課題が生じたときに状況を分析し解決することに大いに役立ち、同じ病棟で働くスタッフや他職種の方から相談を受けることも増え、チーム医療への貢献につながっていると思います。また、私の研究テーマでもあるリフレクションを中心に成人学習理論を用いて委員会でのシミュレーション教育を実践するなど臨床での看護教育に役立っています。そして、臨床で働く看護師なら理解頂けると思いますが、看護実践の場では常に様々な現象が起き悩むことがあります。その現象について問い、臨床的疑問に変え、臨床での看護研究や看護実践につなげることができるようになったと考えます。

⑦大学院入試を検討している方へのメッセージ

大学院では最終的に論文を執筆しなければなりません。その過程として研究活動においては多くの困難を経験し、自分自身に向き合う日々も続くと思います。しかし、大学院での学びは、必ず自分自身を大きく成長させます。そして多くの困難に対して、教育指導教員の先生方や大学院生の仲間、先輩方が親身になってサポートしてくれる環境が本学の大学院にはあります。ぜひ勇気を出して大学院へチャレンジして頂ければと思います。

＜保健看護教育＞　看護管理者　饒平名 かおり

①大学院を目指したきっかけや理由

大学院進学当時、副看護師長として教育担当者の役割を担いながら臨床で看護師教育を実践していました。しかし、私自身が看護師に関わる際に、教育担当者として意図した教育的介入ができていないことに気づき、その課題を解決したいと考え、働きながら学ぶことを決意し大学院に進学しました。

②大学院で取り組んだこと

看護師がお互いを尊重し、アサーティブな表現でコミュニケーションをとり支援し合いながら看護実践することは、看護師の成長につながることに気づきました。修士課程では、「学習会と臨床での取り組みを連動した現任教育プログラムの構築」をテーマに取り組みました。これによって、臨床で行なわれている看護師のコミュニケーションの変化から、学習会と臨床が連動した現任教育プログラムの意義を明確にすることができました。

③大学院で学んだことや得たこと

看護の分野を幅広く学びなおしする事ができました。大学院では、自己学習を主体的に進め、授業において学生各々の専門的領域の視点で意見を交わしたことは、刺激を受けると同時に視野が広がり有意義な時間となりました。また、講義を担当してくださった先生方は著名で経験豊富な先生方が多く、様々な分野から看護の本質を問い臨床の看護実践に活用することの重要性を学ぶことができました。

④大学院に進学してよかったこと

大学院生や先生方と出会えたことは、貴重な財産となっています。様々な看護師経験や悩みなどを話合うことで、視野が広がり柔軟な考え方が持てるようになりました。現在も、先生方とはゼミや学生の講義を担当させて頂き交流があります。自身や後輩育成のため、キャリア支援の相談にも対応してくださり、視野の広がるポジティブな助言を頂いています。

⑤大学院に進学して大変だったことと、それを乗り越えるために工夫したこと

働きながら進学するためには、勤務先の理解を得ることは非常に重要です。私は、授業日程をカレンダーに記載し、上司やスタッフと共有しながら協力を得て夜勤の調整をしてもらいました。また、集中して研究に取り組む時期は、夏季休暇や年休を当てて長期休暇を取るようにしていました。学ぶだけではなく、学んだことを組織へいかに貢献できるかが重要になると思います。

⑥大学院での学びで現在の活動につながっていること

進学後は、働きながら学ぶことを様々な先生方が惜しみなく支援して頂き無事修了できました。大学院終了後は、研究した学習プログラムをクリニカルラダーの必修研修に組み込み、看護師のコミュニケーション能力の向上に繋げています。現在は、研究したものをさらに発展させ臨床の質向上に繋げるため、博士後期課程に進学し学習を継続しています。

⑦大学院入試を検討している方へのメッセージ

大学院への進学を迷っている人も多いと思いますが、大学院で学ぶことの意義を知ってほしいと思います。日々、感覚的に看護実践しジレンマに感じていることが多いと思いますが、そのジレンマを解決するために科学的な視点で研究に取り組み仮説を立証していく事は臨床の質向上に繋がると信じています。研究者を目指す方はもちろんですが、実践家の方は是非大学院へ進学し、臨床の質向上と自己のキャリアアップを目指してほしいと思います。

＜高度実践看護師教育課程　実践がん看護＞　がん看護専門看護師　訪問看護ステーション管理者　宮里 春香

①大学院を目指したきっかけや理由

大きな目標やキャリアアップの意識はほとんどありませんでした。私自身のワークライフバランスを考えた際に、大学院への進学が生活へ変化をもたらすと思い進学を目指しました。

②大学院で取り組んだこと

看護実践では日々の業務に追われ、看護学やエビデンスなどエビデンスを調べる、ケアの意味づけなどを意識せず日々勤めていました。しかし大学院へ進学し看護学を学び、エビデンスや論文検索など日々の看護実践また過去に行った看護実践への意味づけを意識的に行っていきました。実践と結びつけることにより自然と、論文などを読み解くことに楽しみを感じました。

③大学院で学んだことや得たこと

経験だけでなく看護学という学問またその他の領域での学問を学ぶことができ、患者やその家族、また組織へ物事の説明などが具体的に行うことができ、理解を求めるために可視化するスキルを学ぶことができました。また大学院の同期に相談すると、論理的視点からの意見が聞かれそれを踏まえ実践の場へ落とし込む工夫など、相談できる仲間を得ることができました。

④大学院に進学してよかったこと

スーパーバイズが得られる存在に出会えたことや、可視化や日々の看護実践に意味づけできるようになったことが現在も活かされています。自分自身だけでなく管理業務においても、職員への声かけも意味づけしながら具体的に行うことができます。

⑤大学院に進学して大変だったことと、それを乗り越えるために工夫したこと

仕事と学校、育児との両立ですが、全て必要なことであり目の前にある提出物を行うこと、またその中で自分の楽しみを見つけ楽しむ時間を意図的に作ることを意識しました。

⑥大学院での学びで現在の活動につながっていること

新しい情報収集を行う際、学会だけでなく論文検索を行い大学院同期と意見交換ができることと、患者、家族、職員に対しても具体的な説明や資料作成、声かけができチームワークを作ることに役立っています。

⑦大学院入試を検討している方へのメッセージ

色々な役割を担っている中で悩まれているかもしれません。楽な学生生活とは異なった学生生活ですが、今行なっている看護に対しては意味づけができ看護を楽しむことができるかもしれません。ただそこに至るまで訓練をする場所かと思います。大学院で得た知識や出会った人も全て人生において財産になるかと思います。自分自身の価値も見出せるかもしれません。大学院入試を受けるか受けないかで、視野や価値観が異なってくるので時間や体力、経済面なども考慮し検討されるといいかもしれません。目標や理想が高すぎると、現実の苦しさがより一層強く感じることもあるので自分に無理なく学びを得ることを忘れず一つずつ決断されるといいかと思います。

博士後期課程

取得可能学位：博士（看護学）

それぞれが学修した看護分野における研究者として、自立した研究活動を行うのに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う能力の獲得をめざします。

大学院の概要をチェック

学位取得（博士）までのスケジュール（例）

1年生前期	1年生後期	2年生前期	2年生後期	3年生前期	3年生後期
専門科目・選択科目 文献検討		専門科目（研究）・研究計画書作成 ・研究計画検討会＊ ・倫理審査			
			＊研究計画検討会は合格するまで繰り返し実施します。		
			専門科目（研究）・データ収集 ・分析 ・論文執筆		・論文審査および 最終試験

＊長期履修制度により4年間の就業が認められています。

主な博士論文のタイトル

■皮膚・排泄ケア認定看護師の褥瘡ケアにおける判断過程（保健看護教育）
■十代母親のハイリスク者を特定するためのスクリーニングツールの開発（母性保健看護）
■日本語版親用退院準備性尺度（Japanese Readiness for Hospital Discharge Scale-Parent Form）の信頼性と妥当性 -沖縄県のNICU から退院する乳児の親への応用可能性-（小児保健看護）
■頭頸部がんサバイバーが体験する晩期有害事象の症状クラスターと関連要因および対処行動（成人保健看護）
■要介護高齢者の社会貢献を推進する看護実践の構造（老年保健看護）
■不眠を有する冠動脈疾患患者が睡眠衛生を導入していくプロセス（新領域保健看護）
■沖縄県の小規模離島で働く看護職者に必要なコンピテンシー（島嶼保健看護）

博士論文一覧をチェック

在学生の声

＜老年保健看護＞　老人看護専門看護師　東嵩西 寿枝

①大学院を目指したきっかけや理由

私は、2018年に修士課程修了後、老人看護専門看護師の認定を受け、急性期病院で認知症ケア・高齢者ケアの質の向上を目指し活動を始めました。しかし実際は、ケアの質の向上のためにどのように具現化すればよいのか悩み、実践だけでなく研究能力も必要だと痛感し、後期課程を目指しました。

②大学院で目指していること

ケアの質の向上のためには、ケアを可視化し協働できる仕組み作りが必要だと考えます。後期課程では、自立した研究活動を行うため基礎となる学識を身につけ、物事を俯瞰的に捉える力を養い、高度実践者として看護ケアの質の向上に貢献できることを目指しています。

③大学院に進学してよかったこと

研究のデザインや構成など学術的に知識を身につけることができるので、質的研究・量的研究を自立して行うための基礎を身につけることができると思います。また、研究活動を通してより多くの論文を読むことができるため、最新の知見を得ることもでき、根拠を持って現場での実践に活かすことができます。

④大学院に進学して大変なことと、それを乗り越えるための工夫

仕事と学業の両立は大変ですが、職場の上司や同僚からの支援が得られていることで学びを続けることができています。私自身も学んだ知識や技術を院内教育や実践で還元できるよう意識して活動しています。また、同期と一緒に語り合うことで学びの共有だけでなく、苦難にも立ち向かっていけていると思います。

⑤大学院入試を検討している方へのメッセージ

大学院は3分野6領域から構成されており、より専門的な視野や学識を深める科目が設けられています。また、長期履修学生制度もあるため、働きながらでも学業との両立を目指すことが可能だと思います。ぜひ、一緒に専門職業人のリーダーとして高度な実践・研究活動を目指していきましょう。

＜小児保健看護＞　與那覇 真帆

①大学院を目指したきっかけや理由

大学時代の卒業研究で、看護研究の楽しさや可能性を感じ、患者さんの想いを医療現場に伝えられる研究をしたいと思うようになりました。そこで、県内に多くの小児看護専門看護師を輩出し、テーマである移行期医療に関する研究が深められそうな本学に進学することを決めました。

②大学院で目指していること

研究者としてのスキルや実践現場での経験を積み、患者のニーズに応えるための研究をすることと、その結果を周知することです。

③大学院に進学してよかったこと

臨床現場ではまだまだ力不足の私ですが、ひとりの看護師としてだけではなく、研究者として、同じ目標を志す多職種や移行期医療の最前線を担う方々と同じ目線で話ができること、ネットワークが広がったことが大学院に進学して良かったことのひとつです。

④大学院に進学して大変なことと、それを乗り越えるための工夫

私の場合、家族と職場の支えなしでは博士前期課程の修了は難しかったと思います。大学院の講義の日程などを事前に調整しておき、周囲の理解を得ることが大事です。働きながら課題をこなすのはハードな時期もあり、締め切りまでに自分の目指す完成度に到達できないことも多々ありますが、講義やゼミのディスカッションで理解を含めていくこともできるので、無理せず指導教員に相談すると良いと思います。

⑤大学院入試を検討している方へのメッセージ

自分の考えを自由に発言でき、疑問を一緒に解決しようとしてくれる先生方や大学院の同期に支えられ、充実した大学院生活を送ることができました。大学院進学を検討する理由は人それぞれだと思いますが、本学はやりたいと思うことを形にできる場だと思いますし、私は博士前期課程から続けて博士後期課程へ進学しました。皆さんと共に学びを深め合えることを楽しみにしています。

修了生の声

＜新領域保健看護＞　がん看護専門看護師　大学 助教　源河 朝治

①大学院を目指したきっかけや理由

学部生の頃に、大学院の先輩に憧れて大学院への進学や教員への道を意識し始めました。その後、現場で自分の実践に不全感を感じながらも教育・研究者への夢を諦められず、博士前期課程で専門看護師コースを選択、その後博士課程へと進学しました。

②大学院で取り組んだこと

博士前期課程では、がん看護専門看護師の認定を目指した学習を行いました。博士後期課程では、前期課程で取り組んだ頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象についての研究に取り組みました。

③大学院で学んだことや得たこと

博士前期課程では、がん看護に関する高度実践を学びました。具体的には、既存のエビデンスの活用方法、看護専門看護師として患者・家族を捉える理論的な視点、患者・家族を取り巻く医療スタッフとの関わり方、組織のなかでの役割獲得を行うプロセスなどは特に新しい学びでした。博士後期課程では研究に取り組むうえでの哲学的背景や方法論、論文執筆に必要な知識などを学びました。博士前期課程・博士後期課程とで同じテーマで研究に取り組みましたが、高度実践として考えることと、研究として考えることが関連はしつつも大きく異なるのだということは大きな学びとなりました。

④大学院に進学して大変だったことと、それを乗り越えるために工夫したこと

博士前期課程に進学して良かったことは、日々の看護実践を意図的に行えるようになり、その実践を他者へ論理的に語ることができるようになったことです。博士後期課程に進学して良かったことは、教科書や論文の内容がどのようなプロセスで導かれてきたのかを知ることで看護ってこんなに自由でいいんだなと学べたことです。また、大学院全体にいえることですが、志を同じくする多くの仲間と出会えたことは何事にも代えがたい財産です。

⑤大学院に進学して大変だったことと、それを乗り越えるために工夫したこと

博士前期課程で大変だったことは、仕事と勉強と生活とのバランスを保ち続けることでした。また、現場の問題と大学院の課題をリンクさせることで課題の負担軽減ができるよう行動していました。博士後期課程で一番大変だったことは、博士論文を書くというプロセスが、膨大なことでした。そのため、不十分でもいいからとにかく諦めずに1行でも1フレーズでも進めると強く決意し、行動するようにしました。また、院生同士で話をすることで辛い期間を乗り越えることができたと感じています。

⑥大学院での学びで現在の活動につながっていること

私は現在、本学の教員として勤務しています。私の歩んできたプロセスは、一般的なものではありません。しかし、そのおかげで学生が対峙している課題に対して、時に高度実践の視点で、時には学問的な視点でアドバイスをすることができています。

⑦大学院入試を検討している方へのメッセージ

私は、社会に出てからの学びは人生の壁を乗り越える武器を得ることだと考えています。今このパンフレットを目にしている方は今の自分や周囲の環境に不全感を持っている人もいらっしゃるかもしれません。目の前の壁を乗り越える選択肢として沖縄県立看護大学の大学院をぜひご検討ください。

Q カリキュラムについて教えて下さい。

博士前期課程と博士後期課程には、保健看護管理・教育、地域・精神保健看護、母性・小児保健看護、成人・老年保健看護、新領域保健看護、島嶼保健看護の6領域があります。所定の科目の単位を取得して、論文審査ならびに最終試験に合格すれば修士（看護学）、または博士（看護学）の学位が得られます。また博士前期課程では、老年看護、がん看護、小児看護、精神看護、NP（プライマリーケア）の5つの高度実践看護師のコースがあります。修了時に高度実践看護師受験資格が得られます。

Q 働きながら学ぶことはできますか？

可能です。社会人が学びやすい環境を整備するため、博士前期・後期課程においては、昼夜開講制を導入しており、月曜～金曜日の6・7 限目（17:40～20:50）および土曜、日曜日の1～5 限（8:40～17:30）に講義を開講しています。

Q 最終学歴が看護専門学校卒なのですが、大学院を受験することはできますか？

受験できます。ただし、受験資格の審査を受けていただく必要がありますので、募集要項をご確認の上、所定の期間内に手続きを行ってください。

Q 離島で勤務している場合でも大学院で学ぶことはできますか？

本学と宮古島市（宮古島教室：県立宮古病院内）、石垣市（八重山教室：県立八重山病院内）、久米島教室（公立久米島病院内）を結ぶIT を利用した遠隔講義システムが整備されています。同時・双方向で映像や音声データの通信が可能で、離島にいても講義を受けることができます。

Q 島嶼枠について教えてください。

離島在住者、または、島嶼保健看護領域の継続的な人材育成を可能にすることを目的としています。入学願書を提出する時点ですでに離島に在住しており、在籍する医療施設等において、1年以上の実務経験がある方が対象となります。

アドミッションポリシー

博士前期課程　募集人員：6名

博士前期課程では、広い視野に立って保健看護の立場から高度なケアの実践や教育をめざし、研究活動にも関心と意欲を持った者を求めます。

1 高い基礎学力と専門領域に関心と意欲を持ち、問題解決のために自立して行動できる者
2 豊かな実務経験があり、高度実践者、看護教育者として社会に貢献しようという者
3 既存の専門分野にとらわれることなく、人々の健康ニーズに応じて看護を発展して貢献したい者
4 異なる文化を理解し、人々とのコミュニケーションを図ろうとする者
5 働きながら学修する者は、仕事と学業とのバランスが取れる者

博士後期課程　募集人員：2名

博士後期課程では、看護学を発展させるための研究活動ができる資質と能力及び関心と意欲を持った者を求めます。

1 博士前期課程修了あるいはそれと同等の専門知識や技術を持つとともに後期課程の研究に取り組む準備ができている者
2 高度実践者、看護教育者、看護研究者として社会に貢献しようとする者
3 新たな学術的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意欲を持つ者
4 働きながらでも学修することを希望し、仕事と学業とのバランスの取れる者

入試情報

博士前期課程（試験日：10月初旬の土曜日）

試験科目	高度実践看護師教育課程及び島嶼枠志願者	時 間	配点
共通科目	共通科目	60分	100
専門科目※1	専門科目※1	60分	100
英　　語※2	-	60分	100
面　　接	面　　接	15分	100

博士後期課程（試験日：10月初旬の土曜日）

試験科目	時 間	配点
共通科目	60分	100
専門科目※1	60分	100
英　　語※2	60分	100
面　　接	20分	100

※1 専門科目試験は、自分の志願する専門科目を受験。
※2 英語試験は英語辞書1冊持ち込み可、電子辞書不可。

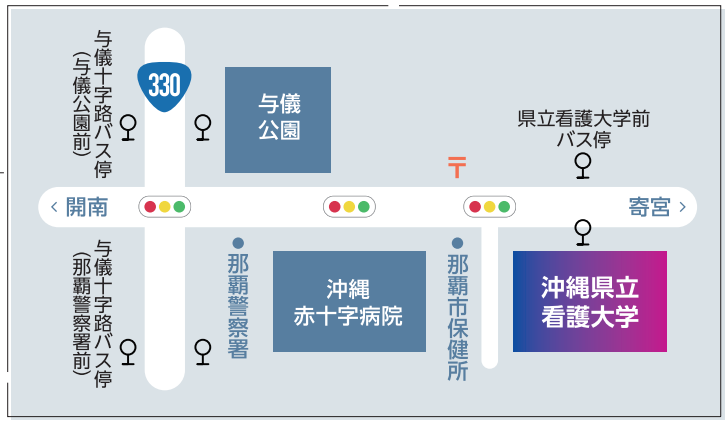
授業料

学納金	金額
入学金　県内居住者	282,000円
その他の者	512,000円
授業料（年間）	535,800円

※博士前期課程において長期履修制度を利用する場合は、2年間の学納金を3年間にわたって徴収します。
※博士後期課程において長期履修制度を利用する場合は、3年間の学納金を4年間にわたって徴収します。
※博士後期課程の入学者が本学の博士前期課程在学中の場合、入学料の納付は不要です。
※授業料の減免や奨学金制度（日本支援機構奨学金、沖縄県看護師等修学資金 等）もあります。

その他入試情報をチェック

アクセスマップ



沖縄県立看護大学　研究科入試委員会

発行：令和6年6月　〒902-8513 沖縄県那覇市与儀1丁目24番地1号　TEL：098-833-8800　FAX：098-833-5133　https://www.okinawa-nurs.ac.jp/